

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課、文化財課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値						37,653	36,794			
見込値										
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
生涯にわたって自ら学び、学びあっている。		①日頃学習活動をしている市民の割合	%		目標値	25.1	27.5	30.0	32.5	35.0
					実績値	26.0	21.3			
		②公民館・集会施設等の年間利用者数(R4から新規)	人	目標値	94,000.0	95,000.0	113,000.0	138,000.0	150,000.0	
				実績値	43,846.0	41,471.0				
		③図書館・室の年間利用者数	人	目標値	30,600.0	31,100.0	60,000.0	80,000.0	100,000.0	
	実績値			9,193.0	8,404.0					
			目標値							
			実績値							
			目標値							
			実績値							
成果指標設定の考え方	「生涯にわたって自ら学び、学びあっている」成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」を市民アンケート結果及び各社会教育施設の利用者数データを採用する。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>日頃学習活動をしている市民の割合について、令和5年度は目標値27.5%に対し21.3%と6.2%減少した。目標値と比較すると5%以上となり、新型コロナの5類移行で施設利用の制限が無くなったにもかかわらず、市民の学習活動は低下しており、何らかの対策が必要な状況である。公民館利用者は岩瀬中央公民館を閉館した影響から大きく下回る状況が続いているが、今年度、新たに生涯学習センターが開館するため、次年度以降は大きく環境が改善する見込みである。図書館・室の年間利用者数については、電子図書館等、新しい読書形態が増えたことのほか、岩瀬中央公民館図書室が無くなり、代わりとなる改善センターで開架図書が1/5程度になった影響が考えられる。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	<p>①日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値27.5%に対し21.3%と6.2%減少した。R4年度は施設の利用制限がある中で指標が上昇していたにも関わらず、制限が無くなったR5年度に指標が低下したことから、何らかの対策が必要である。 ②公民館の年間利用者数については、95,000人の目標値に対し、41,471人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、31,100人の目標値に対し、8,404人と大幅に下回った。 目標値を大幅に下回った要因としては、岩瀬中央公民館の閉館が大きく影響している他、児童生徒の電子図書館利用が活発なことが考えられる。</p>		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業・成果向上の余地が高い事業は下記のとおりである。 ・電子図書館システム運用事業…コロナ禍の中で様々な行動が制限される中、24時間提供可能な非来館型図書館として、多く利用されている。(提供事業者からは全国でも上位の利用を維持していると聞いている) ・桜川市生涯学習センター管理運営事業…岩瀬中央公民館跡地に建設中の生涯学習センターは令和6年度に開館する予定で準備を進めている。令和5年度においては設置管理条例を制定したほか、指定管理事業者を決定した。開館後は、民間事業者のノウハウを活かし、併設される図書館機能を活かして公民館事業を展開していく予定。 ・桜川市図書館管理運営事業…桜川市に無かった図書館条例に基づく図書館として生涯学習センター内に令和6年度に開館する予定。指定管理者による民間のノウハウを活かした充実した図書館サービスを提供できるよう準備を進めている。</p>	<p>各種催事参加者や社会教育施設等の利用者が高齢化しており、これまで生涯学習分野で参加が少なかった幼児・小・中・高校生や現役世代のニーズに応えられる事業展開が課題となっている。 子どもの読書推進計画策定やブックスタート事業、公民館読み聞かせ事業については、今年開館予定の複合施設(図書館)と併せて飛躍が期待できる重要な事業であり、引き続き注力していく。 各施設の管理運営に関しては、生涯学習センターの開館にあわせて大和中央公民館の一時閉館を予定しており、改修後にはより発展した定期講座を展開できるよう、生涯学習センターで指定管理者が民間のノウハウを展開する講座を展開し、うまく行ったものをその他の施設で横展開することを検討する。</p>